

平成30年度 狭山市立 入間野中学校 学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】

- A : よくできている。 (90%)
- B : 概ねできている。 (80%以上)
- C : あまりできていない。 (70%以上)
- D : できていない。 (70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価			学校関係者評価委員から	
			評価	割合	説明	評価	評価(文章表記)
学校運営全般	1	学校は、学校教育目標の達成に向けて、組織的に取り組んでいる。	A	100.0	昨年同様に、保護者の学校評価アンケート「学校の経営方針や重点が適切に知らされているか」は、やや下回るものの96%にとどまった。問題行動に対しての組織的な対応は、SNS等に対してのトラブルが多発したため、そのための対処の問題点も含まれる。生徒理解については、ハイパー・QUを行い、面談活動等の教育相談を充実した結果、6.5%上回った。清掃が行き届き、学校がきれいであるについては、保護者の評価では、昨年は95.1%で、今年度は1.1%下回り、自己評価では11%下回った。また生徒会のアンケートで、清掃の取り組みについては60.1%であり、次年度の課題である。	A	・昨年度より先生が子どもたちに寄り添う光景が見られ、落ち着いた生活をしている。課題を抱えている生徒に対するケアをさらに充実させる必要がある。 ・清掃に対する取り組みに課題があるものの学校経営については具現化のために重点施策がきめ細かく実施されており、堅実な学校経営が行われている。 ・不登校生徒がいることは大変残念であるが、そうした生徒の把握や対応に一丸となって取り組んでいる様子は評価できる。学校として感性豊かで健全な生徒の育成が図られている。 ・落ち着いた学習、聞く環境ができています。生徒の規範意識を高める取り組みができています。 ・清掃の取組については、今後検討の必要がある。
	2	学校は、生徒の生活によく気を配り、問題に対して組織的に、迅速に対応している。	A	96.0			
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A	100.0			
	4	教師は、生徒理解に努め、一人一人の生徒の心の悩みに応えようとしている。	A	100.0			
	5	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B	89.0			
	6	学校の施設・設備は安全に管理されている。	A	100.0			
学習	7	教師は、生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	A	96.0	県学力調査や全国学力の結果からは、どの教科も県平均を上回る結果とはなったが、教師の生徒が授業を概ね理解できているかについては、9.8%上回り、保護者の評価は、2.9%下回った。生徒の評価でも3%下回った。今年度も教員の指導力向上のために授業研究等の授業改善について取り組んだが、さらに基礎・基本の定着とわかりやすい授業に取り組んでいきたい。	A	・授業参観し、教師と生徒がともに真面目に取り組んでいる様子が見られ、継続して取り組んでほしい。さらに生徒がもっと主体的にかかわれるような授業の創造が望まれる。 ・学力が県平均を上回っていることをうれしく感じるとともに、各先生の指導によるものと感謝している。 ・生徒のみならず教師が自ら学ぶ努力をしたり、異校種との連携、さらにはHyper-QUの実施など、多様な取組が大変評価できる。 ・家庭学習は各自がもっと勉強を楽しまないと難しいと思う。
	8	教師は、生徒の基礎・基本の定着に努力し、学力の向上を図っている。	A	100.0			
	9	生徒は、授業規律をよく守り、落ち着いた学習に取り組んでいる。	A	100.0			
	10	生徒は、家庭学習の習慣を身につけている。	B	87.0			
規律ある態度	11	学校は、行事等を通じて生徒のやる気を育てる指導に心掛けている。	A	100.0	様々な行事や体験学習、生徒会の自治活動、ボランティア活動等を通じて、自他を大切に、自尊感情の高揚につながった。保護者の学校評価でも、望ましい人間関係づくりが行われているかについて95%、きまりを守ることにしても96%であった。生徒の自分には、よいところがあるか、自分の学級が楽しいかについても共に1%上回った。それにともない課題であった挨拶等も上昇してきた。これらは、行事や様々な体験、生徒会主催の感謝の集いやいじめゼロ宣言の取組も寄与している。	B	・下校の様子など、整然と移動できるようになってきている。 ・学校を訪問した時の様子から、節度をもって学校生活を送っていることが感じられる。 ・校外でのあいさつや周りに対する気遣いに課題を感じる。一人一人の規範意識の向上に努めたい。 ・子どもたちの言葉使いが年々悪くなってきている。もっと指導が必要である。 ・道徳の教科化に向け、自分たち大人が背中を見せることが、生徒たちにも伝わると思う。
	12	生徒は、TPOを踏まえ、あいさつや正しい言葉づかいができています。	C	81.0			
	13	生徒は、きまりや時間を守って生活している。	A	96.0			
	14	生徒は、自他を大切に、思いやりのある言動がとれている。	B	88.0			
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	A	100.0			
健康・体力	16	教師は、生徒の学校生活が充実するよう指導している。	A	100.0	生徒の学校評価アンケート「学校は楽しいか」では昨年同様の92%を維持した。健康を意識してでは、保健部や生徒会の委員会活動、ヘルスタイムでの啓発活動等の地道な取り組みが向上し、歯の治癒率等も上がってきた。引き続き学級指導や家庭への協力を求めていく。	A	・学力の土台は健康な体とした方針に基づき、虫歯の治癒率を向上させた実績は、特に評価できる。引き続きの指導を望む。 ・校内での啓蒙活動があるので家庭でも意識が高まっていると思う。 ・充実した体育祭、部活動の成果等、日々の実践が実っている。 ・学校が楽しいのは先生のおかげと感謝している。
	17	生徒は、体育授業や部活動に意欲的に取り組んでいる。	A	100.0			
	18	生徒は、健康を意識し、自己の健康管理を意識している。	A	100.0			
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供し、説明責任を果たしている。	A	100.0	保護者による評価「開かれた学校」では、94%。今年度と同様に学校だよりやホームページ等で積極的に情報発信に努めていく。	A	・学校行事の案内や、地域行事への参加・協力、地域の人材活用等よく努めている。 ・地域の幼稚園、小学校、高校との交流ができています。 ・取り組む姿勢について、教師間で温度差があるのではないかという思いもある。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A	100.0			